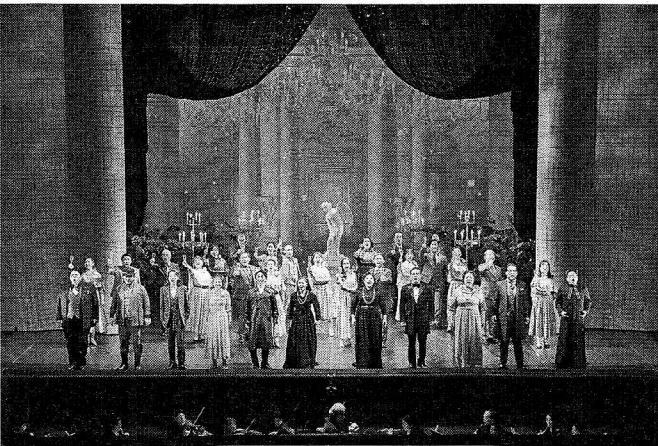


オペラ 第32回みつなかオペラ「フィガロの結婚」

(みつなかオペラ実行委員会、川西市文化・スポーツ振興財団)

オペラ

結婚



みつなかホール提供

高い音楽性と表現力

兵庫県川西市「みつな
かオペラ」は今年第32回。
モーツァルト作曲オペラ
「フィガロの結婚」を上
演した。歌手の音楽性と
表現力が極めて高く、歌
詞の勘所を今に伝えた。
モーツァルトと詩人ダ・
ポンテの、時代を見る目
が現代によみがえる。

に深い愛を引き出した。

医師・武久竜也と音楽
教師・中川正崇は男社
会、権力社会を面白おか
しく歌にする。中でも裁
判官・加護翔大の、伯爵
に付度する歌が今の司法
を見るようだ。これじゃ
世も末とモーツァルトの
声がする。

妻に飽きた伯爵は、召
使いのスザンナに夢中。
同じく召使いでスザンナ
の婚約者フィガロは巻き
返しをはかるも、事は容
易でない。伯爵夫人の内
山歌寿美は第3幕のアリ
アで最大の山を作る。ふ
がない夫ながら、愛を
取り戻したい、と。

終幕、伯爵邸の女中頭
マルチェリーナ役の岸畑
真由子のアリアが胸を打
つ。陵辱される女性の歴
史を終わりにしようと呼
び掛ける。全ての泥をか
ぶる夫人が人望を得てオ
チを作る。

伯爵の東平間(あずまひら)はセクハ
ラ、パワハラを繰り出す
一方、畏(おそ)にハマると幼児
性丸出しになり、会場は
笑いが止まらない。スザ
ンナの村岡瞳の歌と演技
は、おきょうんな性格を機
関銃のように撃つ集中力

指揮・牧村邦彦はザ・
カレッジ・オペラハウス
管弦楽団から上質な音色
を引き出し、みつなかオ
ペラ合唱団(合唱指揮・
岩城拓也)は舞台を盛り
立てた。井原広樹の演出
は、ジェンダー、ジャニ
ーズ問題が問われる今を
見据えて鋭い。

が光る。守勢の西村圭市
のフィガロも、最後に夫

(宮沢昭男・音楽評論
家)

人に変装したスザンナを
口説いてからかい、さら

10月9日、兵庫・川西
市みつなかホール